

吉増剛造講演会

と詩後戦

親指が隠れて

ように／わたくしは爪の下の

——その木藪にしばし、佇んでいた

「空地に花を

えてしすかに暮らしたい——靈魂がさつ

— そのオにしばらく佇んでいた

[illegible]

てんや

「はい、付んでいた」

「廃星だ」ってよお、わたくしが、ち、「」のまじい

— その一瞬、たしかにしばらく佇んでいた

い／＼

美しい色の／消し炭の

その木庵にしばし、佇んでいた

てんやんでい

木陰にしばら

木蔭にし

2026年1月23日(金)

16:00-17:30

於) 立命館大学衣笠キャンパス
平井記念図書館シアタールーム

入場無料・申込不要

言語表現の可能性を追求し、日本現代詩を牽引しつづけてきた詩人、吉増剛造。

稀代の書き手・shisaku者として知られる詩人が
戦後日本詩を、「戦争と詩」を、あらためて読み、語る。

主催:立命館大学 国際言語文化研究所
世界／日本文学のモダニティ(モダニズム研究会)
連絡先:国際言語文化研究所 genbun@st.ritsumei.ac.jp

